

会 報

〈第370号〉

次代を築くヒューマンネットワーク

一般社団法人兵庫県建築会



発行日：平成28年8月1日

- 目次 ◎ 第449回月例会報告 『横溝正史と神戸』
講師 古書店「うみねこ堂書林」店主 野村 恒彦氏 …… 1～3頁
- ◎ 会員レポート『歴史、文化、産業遺産を活かした欧州のまちづくり』（第3回）
神鋼不動産（株）常任顧問 川端 宏幸氏 …… 4～5頁
- ◎ お知らせ …… 5頁
- ◎ 広報コーナー 兵庫県公館改修記念講演（創立70周年記念講演） …… 6～7頁

月例会報告

《会長挨拶》

講師の野村先生は、神戸の探偵小説の分野で、神戸の文化を一手に担っている方ですが、神戸高校の8年後輩であり、大変誇らしく思います。

お話いただく横溝正史は二中の出身で、小磯良平や東山魁夷などの文化人を多く輩出している学校です。

神戸は探偵小説発祥のまちというか、関係の深いまちと聞いており、今日のお話を興味を持ってお聞きしたいと思います。

第449回月例会

テーマ：『横溝正史と神戸』

講師：古書店「うみねこ堂書林」
店主 野村 恒彦氏

はじめに

講師の野村恒彦氏は、稀代の探偵小説愛好家（探偵小説愛好会崎人郷会長）として知られ、取り分け横溝正史研究に情熱を捧げられています。最初に、講演でお聞きした講師と横溝正史との関わりの概略を紹介し、続いて講演概要を報告します。



（1）横溝正史生誕地の碑

横溝正史の生誕地である神戸市中央区東川崎町にある東川崎公園内に生誕地碑が建立されている。

これは、横溝と親交が深く、日本のミステリーの創成期を共に支えた江戸川乱歩の碑が生誕地で

ある三重県名張市に建立されていることから、野村恒彦氏が横溝の生誕地碑を建立する活動を始めたことで実現したものである。

デザインはメビウスの輪とし、平成16年11月23日に、長男の横溝亮一氏などの列席のもと除幕式が行われた。この11月23日とは、「本陣殺人事件」の密室殺人が発生した日である。毎年11月には記念イベントを実施し、推理作家による対談や講演が行われている。記念イベントは、今後も続けていきたいとのことである。



横溝正史生誕地の碑（遠景はハーバーランド）

（2）横溝作品との出会い

野村氏と横溝作品の出会いは、昭和45年の高校入学後、ミステリーに嵌まり、九大のミステリー研究会の会誌の読者となったことから、その会誌「モルグ」（死体置き場という意味）に「岡山県漫歩」という連載に、「君は横溝を知っているか」という文書を見たことに始まる。

興味を持ち、昭和30年代の東都書房の「日本推理小説大系」で「本陣殺人事件」「蝶々殺人事件」「獄門島」の収録された全集を買い、非常に面白く虜になり、講談社版の「横溝正史全集」（10巻）、角川文庫、東京文芸社刊行本、「新版横溝正史全集」（18巻）等々を読破していくこととなる。

その後、神戸高校（一中）と横溝氏の二中（現兵庫高校）を頼りにファンレターを書き、驚きの返事が来るに至って（昭和48年7月14日）交流が始まり、亡くなる直前まで年賀状等の交換がされた。

1 横溝正史の略歴と作品

横溝の作品は前述の全集のとおり膨大なものであるが、その主なものを時系列で紹介する。

明治35年に神戸市中央区東川崎町（神戸ハーバーランドの南）に生まれる。今は、川重の敷地内となっている。

神戸二中（現 兵庫高校）時代に友人とミステリーを読み始めたのが、横溝のミステリーとの出会いとなる。

大正10年：処女作「恐ろしき四月馬鹿」を「新青年」に発表。これは、「新青年」の探偵小説募集への応募で、1席を取ったもの。江戸川乱歩の処女作「二銭銅貨」よりも早いデビューである。

大正15年：江戸川乱歩の招きで上京。「新青年」の版元の博文館の編集部に入社する。昭和2年に「新青年」の編集長となる。

昭和7年：博文館を辞め、文筆専業となる。この年に「呪いの塔」という長編を新潮社より書き下ろし出版。

昭和8年：結核を患い、咯血して療養。

昭和9年～14年：上諏訪にて療養。結核療養中の昭和10年に、「鬼火」「蔵の中」を「新青年」に発表。

昭和11年：「かひやぐら物語」「真珠郎」を発表。

終戦間際には親戚を頼り岡山県吉備郡岡田字桜（倉敷市）に疎開する。その時に、地元につわろ話を聞き、それらを基に「本陣殺人事件」を「宝石」に連載。

同時に、「蝶々殺人事件」を「ロック」（ミステリー雑誌）に連載する。

昭和22年：「獄門島」を「宝石」に連載。日本の文化を踏まえた謎解きやその設定、余韻を残す結末を含め横溝正史の最高傑作であり、日本探偵小説史上の最高傑作との呼び声が高い。現に「週刊文春」が実施したアンケートでは国内1位に出されている。

昭和24年：「八つ墓村」を「新青年」、「宝石」に連載し、昭和25年に完結。

昭和25年：映画にもなり最も有名と言える「犬神家の一族」を講談社の「キング」に連載。

昭和26年：「女王蜂」「悪魔が来りて笛を吹く」を連載。

昭和32年：「悪魔の手毬唄」を「宝石」に連載を

始める。

昭和43年：「八つ墓村」が「少年マガジン」に漫画で連載され、単行本になった。

『悪魔の手毬唄』が昭和33年頃に出版されるが、その後、ほとんど新作が発表されていない。

この背景は、松本清張に代表される社会派が一世を風靡したミステリーブームがあり、横溝作品は時代遅れとの風潮となったことによる。

昭和44年：「鬼火（完全版）」が桃源社より刊行され、これがきっかけになり、

昭和45年：「横溝正史全集」全10巻が講談社より刊行が始まる。

昭和46年：「八つ墓村」が角川文庫から刊行され、徐々に売れ始め、その後は、角川文庫の独壇場となる。

講談社からも「新版横溝正史全集」全18巻が刊行され、爆発的なブームとなる

昭和50年：「病院坂の首縊りの家」を「野性時代」（角川書店の雑誌）に連載。

昭和51年：「犬神家の一族」が石坂浩二の主演により映画公開。

昭和54年：「悪霊島」を「野性時代」に連載。

昭和56年に亡くなるが、ちょうどブームが去り始めたところで、昭和30年代後半からの不遇な環境にあったことを考えれば、幸せな晩年だったと言える。

2 横溝正史作品の作風

1で述べた横溝正史の作品について、その作風は、大きく3つに分けられるが、同じ作家が書いたとは信じられないぐらいの変化が見られる。

（1）初期短編時代（ナンセンス時代）

代表作は「恐ろしき四月馬鹿」「広告人形」等いわゆる落ちのある短編である。例えば、オー・ヘンリーの「賢者の贈り物」は、最後にすごい落ちがあるが、そのような落ちをミステリー風にアレンジした作風といえる。

国内作家は長編の発表舞台が無く、短編の執筆が主流だった。

当時の「新青年」には海外作家の翻訳が掲載されていたが、それらに影響を受け、「自分ならこう書く」といった風に執筆、投稿していた。

（2）幻想耽美小説時代（耽美・ロマン派時代）

博文館退社後に結核を患ってから、幻想耽美小説時代（耽美・ロマン派時代）となり、谷崎に近い作風に変わる。「鬼火」、「かひやぐら物語」、「真珠郎」など、どろどろして、しかも怪奇幻想風味があり、現実離れた物語が書かれるようになる。ミ



新青年「鬼火」発表



宝石創刊号
本陣殺人事件

ステリーの範疇に入る作品であるが、これらには耽美小説風の味付けがある。

「鬼火」は「新青年」の昭和10年の2月号・3月号に連載されたが、挿絵は竹中英太郎という有名な挿絵画家が描いている。また、当局の忌諱に触れ、昭和10年2月号は、「改訂版」と判子が押された内容が削除されたものが流布している。

(3) 本格推理小説時代 (本格時代)

3番目が本格推理小説時代で、代表作は、「獄門島」「本陣殺人事件」「蝶々殺人事件」「八つ墓村」「悪魔の手毬唄」「悪魔が来りて笛を吹く」といった有名な題名が並ぶ。これらは全て戦後の作品となる。

この変化の背景には、ジョン・ディクソン・カーの作風に影響を受けたことがある。アガサ・クリステイーが好きだったことから、そのミステリーの書き方のコツを掴み、それにジョン・ディクソン・カーの怪奇趣味の味付けをして本格ミステリー(いわゆる「犯人は誰か」という、謎解きミステリー)を書き始めたのである。

戦時中は執筆ができなかった探偵小説への情熱を一気に爆発させたものである。

おわりに

参考文献として、日本のミステリーの歴史がわかものとして、次の図書を紹介させていただく。

横溝正史には『探偵小説五十年』『探偵小説昔話』『新版横溝正史全集』第18巻『横溝正史読本』『真説・金田一耕助』といったエッセイや座談会をまとめたものがある。

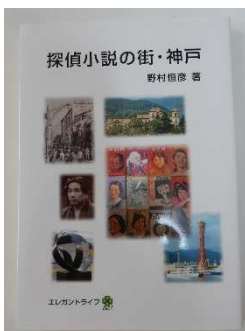
江戸川乱歩には、ミステリー関係の評論集『幻影城』『続・幻影城』さらに、日本の探偵小説史と言える『探偵小説四十年』があり、中島河太郎には『日本推理小説史』がある。

これらを読むと日本のミステリーの歴史がわかる。

最後に自著の紹介をさせていただきたい。

「神戸文学館」(神戸市灘区王子町・原田の森)で「探偵小説発祥のまち神戸」という企画展が開催された。「発祥のまち」というのはいろいろな意見があるので、確実なことは言えない。その企画展の際にいろんな資料を集めることができた。

それらをまとめたものが『探偵小説の街・神戸』で、神戸は探偵小説の作家が、有名、無名を問わず結構排出しており、その人達のことを書いた本である。



あと、論創社から刊行されているの論創ミステリー叢書の『横溝正史探偵小説選IV』。これの収録作品はミステリーでなく、本の帯にあるように「幻のジュニア時代小説を雑誌未発表分を追補して初復刻」したものである。この巻末にある解題を今回書かせてもらった。

もしよろしければお買い求めいただければ幸いです。

《うみねこ堂書林を訪ねて 7.24》

南京町の西門を出て南に直ぐのところに「うみね



野村恒彦氏 店舗前にて

こ堂書林」があります。開店の準備でお忙しいところでしたが、笑顔で迎えていただき、ファン垂涎のお値打ち初版本『悪魔が来りて笛を吹く』『獄門島』『本陣殺人事件』など貴重な収集本をカメラに収めさせてもらいました。



初版本

元教師の友人が、退職後に古書店を開業したことを知り、「そういう方法があった」と悟り、人生の残るところを計算し、1年早期退職して古書店を始めたということです。

冒頭に書きました「稀代の探偵小説愛好家」は無類の読書家で、若い頃は1日1冊のペースだったそうです。読むコツは、最初の50ページはしっかりと読み、その辺で様子が見えてくるので、後は一挙に読破するとのこと。

便利な場所です。一度お立ち寄りください。

神戸文学館 昭和・戦前コーナー

「探偵小説発祥の地」紹介記事

かつて、神戸の古本屋には、神戸に寄港する外国船で運ばれた海外の雑誌が山のように積んであった。神戸出身の横溝正史と西田政治は、そこで海外の探偵小説を渉猟し、フリーマンやビーストンを発掘した。そして自らもその道に進んだのである。大正14年、二人は当時大阪にいた江戸川乱歩とともに、探偵趣味の会を発足。機関紙「探偵趣味」を発行した。

会員寄稿
『歴史、文化、産業遺産を活かした
欧州のまちづくり』 (第3回)

神鋼不動産(株) 常任顧問 川端 宏幸氏

第3回目は、工業地帯からの地域再生の取組をご紹介します。

ゲンゼルキルヘン(ドイツ、27万人)

ルール地方を流れるライン川の支流エムシャー川流域は、石炭鉱業、鉄鋼業、化学工業等が密集した鉱工業地帯を形成していたが、1970年代を境とした産業構造の転換により重化学工業が衰退し、人口の減少や自然環境の崩壊が見られた。

エムシャーパーク構想は、このエムシャー川流域の800km²(東西約80km、南北約10km、居住人口約220万人)に及ぶ地域を、国際コンペ方式を取り入れて再生しようというもの。実施に当たっては、1989~1999年の時限組織として、州政府が出資するIBAエムシャーパーク社を設置し、全体調整を行い、各事業は市町村、民間が実施した。



▲エムシャーパーク構想位置図

○ラインエルベ学術研究パーク

ゲルゼンキルヘン市の「ラインエルベ学術研究パーク」は、公園の中のオフィスをコンセプトとした16のプロジェクトのひとつである。このプロジェクトの目的は、旧テュッセン鋳鋼工場とラインエルベ鉱坑の跡地である約28haの敷地に、学術研究パークを創設し、エムシャー・リッペ地区に将来の研究開発都市としての基礎を築くことにある。

かつてのテュッセン鋳鋼工場の南には、ラインエルベ鉱坑の敷地がある。旧テュッセン鋳鋼向上の跡地利用の次には、この敷地も学術研究パークの一部となる予定で、その一部は再利用されている。旧変圧室はIBAの総括本部として、また、電話交換室はIBAのゲストルームとして使用されたが、1999年にその役割を終え、現在は会議室として使われている。



▲ラインエルベ学術研究パーク案内看板



▲研究施設「メディア・アクシス」



▲IBAの総括本部が置かれていた建物



▲ トラム（路面電車）の中にも、エムシャーパーク構想の遺構が表示されている

○オーバーハウゼンのガゾメーター

ゲンゼルキルヘン市の西隣にオーバーハウゼン市がある。その市の中央を流れるライン・ヘルネ運河は、サイクリングや散歩道、またボート回遊のルートを用意した市民の体験・学習場に整備されている。その運河沿いに再利用において対照的な2つの施設が隣接する。

そのひとつは、ガスタンク跡を産業史博物館にしたガゾメーターで、1928～1929年に建設され、1994年に改修された。運河沿いにひときわ際立つ高さ117mの大モニュメントである。



▲ ガスタンク跡を再生したガゾメーター

お知らせ

◎ 国土交通大臣表彰
(建設事業関係功労 住宅・建築事業関係)

受賞者 山本 康一郎氏
(株)山本設計 代表取締役社長
受賞日 平成28年7月11日

誠におめでとうございます。

お知らせ

◎行事ご案内

○第450回月例会

テーマ：『緊急報告：熊本地震の現場』
『ご存知ですか？介護現場の今！』
講師：(社福)きらく園事務長 高橋守雄氏
日程：平成28年9月8日(木)
12:00～
会場：神戸三宮東急REIホテル
ご案内中です。ご参加をよろしくお願いいたします。

○住生活月間イベント

『兵庫・神戸 みんなの住まい展』

日程：平成28年10月15日(土)
～16日(日)
会場：神戸ハーバーランドスペースシアター外
当会はイベント実行委員として事業に参画しますので、会員の皆様には是非会場へお運び下さい。
詳細は、おってお知らせします。

創立70周年記念講演会
(第451回月例会)

日程：平成28年10月13日(木)
13:30～16:00
会場：兵庫県公館
(神戸市中央区下山手通4丁目4-1)

第一部 (13:30～14:45)

講演会：『建築がまちを変える』
講師：兵庫県立美術館館長 蓑 豊氏

第二部 (15:00～16:00)

公館改修工事説明・見学会
ご案内中です。ご参加をよろしくお願いいたします。

創立70周年記念研修交流会
第153回建築会ゴルフコンペ

日程：平成28年10月27日(木)
9:00～アウト・インスタート各3組
会場：城山ゴルフ倶楽部
(加古川市志方町野尻808-1)
競技：18ホールストロークプレー
(ダブルペリア)

開催要領はおって発表します。ご予約をよろしくお願いいたします。

事務局：谷 純夫、石井滝実子
電話：078-996-2851
FAX：078-996-2852
Email：archit-k@axel.ocn.ne.jp

兵庫・神戸 みんなの住まい展 協賛イベント

参加
無料

歴史と文化の香る 兵庫県公館改修記念講演・見学会

～（一社）兵庫県建築会 創立 70 周年記念～



兵庫県公館は、明治 35 年(1902)年に兵庫県本庁舎として建設された歴史的な重要建造物です。

特に昭和 60 年(1985)年に、迎賓館と県政資料館を併せ持つ兵庫県公館として整備されてからは、阪神・淡路大震災を乗り越え、賓客の接遇や式典利用だけでなく、兵庫ゆかりの芸術家たちによる作品を多数展示するなど県民の皆様大変親しまれています。

このたび、30 年ぶりに屋根及び外壁の改修を終えた兵庫県公館において、阪神・淡路大震災からの「文化の復興」のシンボルとして閉館した兵庫県立美術館の養館長による講演会とともに、公館改修工事の説明・見学会を実施します。

この講演・見学会は官民協力による戦災復興を契機として創立され、阪神・淡路大震災の復興など兵庫県のまちづくりに貢献してきた一般社団法人兵庫県建築会創立 70 周年を記念し共催で開催します。

平成 28 年 10 月 13 日 (木) 13:30～16:00

会場：兵庫県公館 第 1 会議室

定員：100 名 (先着順、定員になり次第締め切ります) 申込締切：平成 28 年 9 月 9 日

【第一部】講演会 (13:30～14:45)

講師：兵庫県立美術館 館長 養 豊 氏
『建築がまちを変える』



【第二部】公館改修工事説明・見学会 (15:00～16:00)

説明：設計監理 兵庫県県土整備部住宅建築局営繕課
左官工事監修 竹中大工道具館
施工 株式会社柄谷工務店

主催 兵庫県／（一社）兵庫県建築会

後援 （一社）兵庫県建設業協会／（公社）兵庫県建築士会／（一社）兵庫県建築士事務所協会
兵庫県建築設計監理協会／（公社）日本建築家協会近畿支部兵庫地域会

第一部 講演会 (13:30~14:45)

『建築がまちを変える』

優れた公共建築により街のイメージを一新し、優れた人材を集めることに成功したアメリカのコロンバスの事例を通じ、誇りを持てるまちづくりについて考える。

兵庫県立美術館 養 豊 館長

1941 金沢市生まれ
 1965 慶応義塾大学文学部卒業
 1969~1971 カナダ・ロイヤルオンタリオ博物館東洋部学芸員
 1976 ハーバード大学大学院美術史部博士課程終了、翌年、文学博士号取得
 1976 カナダ・モントリオール美術館東洋部長
 1977 アメリカ・インディアナポリス美術館東洋部長
 1985 シカゴ美術館中国・日本美術部長、東洋部長
 1995 大阪市立美術館館長、全国美術館会議会長
 2004 金沢 21 世紀美術館館長
 2010 兵庫県立美術館館長



『Sun Sister』ヤブキガガ 作
 阪神・淡路大震災 20 年のモニュメントとして県立美術館に 2015 年設置

第二部 公館改修工事説明・見学会 (15:00~16:00)

明治 35 年に第 4 代目の兵庫県本庁舎として山口半六の設計により建設されたが、昭和 20 年の神戸大空襲により外壁だけ残し、内部はすべて焼失した。昭和 27 年に修復を終え昭和 58 年まで兵庫県南庁舎として使用された後、迎賓館として改築工事が行われた。約 2 年の工事を経て、昭和 60 年に現在の兵庫県公館として生まれ変わり、この度、30 年ぶりに屋根及び外壁の改修工事が行われた。



<<アクセス>>

JR「元町駅」より徒歩 5 分
 市営地下鉄「県庁前駅」東 2 番出口より南側正面玄関へ

【問い合わせ先】

兵庫県 県土整備部まちづくり局 都市政策課
 〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5 丁目 10 番 1 号
 TEL : 078-341-7711 (内線 4669)
 FAX : 078-362-9487
 MAIL : kendo_toshi@pref.hyogo.lg.jp

参加申込書

〔歴史と文化の香る兵庫県公館改修記念講演・見学会〕

※参加ご希望の方は、必要事項をご記入の上、上記（問い合わせ先：都市政策課）まで FAX 又はメールでお申し込みください

ふりがな 氏名		所属	
電話番号		FAX	
メールアドレス		参加内容 下記のどちらかをお選びください	
住所	〒	<input type="checkbox"/> 講演会・見学会共に参加 <input type="checkbox"/> 講演会のみ参加	